
ポケモンの世界に来てしまいました。

追憶の俺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモンの世界に来てしまいました。

【著者名】

ZZマーク

1

【作者名】

追憶の俺

【あらすじ】

『覚めたといひ、そこにはポケットモンスターの世界でした。

どうも、はじめまして。追憶の俺です。小説を書くのは初めてなので、至らぬ点などございますが、宜しくお願いします。なお、不定期連載になるかもしれません。

この小説は、後に最強系オリジン、非公式のポケモン、地方などが含まれています。そうゆうのが苦手な方は「もどる」おススメします。ちなみに何処かの催眠厨のように伝説で無双などはしないかもしれません（笑）それでもOKなたは、次の話へお進みください。

素敵な冒険（笑）の始まり始まり

第一話（前書き）

あまりにもグダグタなので修正
第一話です。どうぞ

第一話

第一話

あ……れ……？

「此処……何処だ？たしか……昨日寝てそれから……駄目だ全然思
い出せねえ……」

見渡すところ縁の木々ばかりで何処かも分からぬ……多分森に迷つ
たんだろう……多分

「さて、どうする……かな」

青年が手を擦り、再度確認する
青年が歩みだそうとすると、何か黒いものが飛び出した。
そして青年を見つめる……

「ん……？」

青年が手を擦り、再度確認する

「ちよつとまてよ……？」こいつどうかで見たことあるよつな……え
……マジ……か……？」

突然出てきた「何か」を青年は知っていた……否、彼に元々は知
らないはずもない

「夢……じゃないよな……」

それがこいつとの旅の始まりだった

To be

continued...

第一話（後書き）

次回、主人公の名前が出てきます。

第一話（前書き）

一話目です。どうも

第一話

「黒いやつ」と出会って数分経ち……未だに森の中をさまよってあります。この歳で迷子だなんて……で、その「黒いやつ」は……

「ズバツー、ズバツー！」

と、多分「あつちだ」と道案内してくれているようですが。ちなみにこいつは多分ズバットというポケモン……だけ

まあ簡単に言えば……俺は「ポケモン」の世界に来ちゃつたらしいです。

いやあ驚きましたね、なんせ田の前にズバットがいるんだから、変なテンションが出ております（笑）

あ……自己紹介がまだだつたような気がする……
でわ改めて、俺の名前は「九堂 椿」この世界だと「ツバキ」になるのかな。

ポケモンは努力値とか個体値厳選とか、なんか廃人っぽいことしてましたね。

んで、この黒いのか「ズバット」まあ真っ黒つてほどじゃないけど。ベルトに付いてたモンスターボールを確認してみると、どうやら所有者は俺らしいのでパートナーとゆうことにしておきます。初めてのポケモンがズバットだつて？まあ育て方によつて無限大の可能性があるので気にしません

もちろん元の世界に帰るつなんて微塵も思つていません、というか方法が無いという（笑）

此処に来た以上、ことをやつてやりますよ

第二話（前書き）

二話目です。どうぞ

前回は「とにかくやってみますよ」と言つたものの、まだ森の中を彷徨つております。……自分が恥ずかしいよ。

それと驚いたことがもう一つありました。近くに綺麗な水辺があるので顔を洗いに水面を見ると……

「あ……これホントに俺デスカ?」

そう、顔が別人みたく変わっていました。しかもHG・SSのライバルに瓜二つという。……漫画と名前同じだから?……あれ、もしかして憑依したの?俺?

……なんかツツツ「口むの疲れてきたよ。

まあ、どうせよ此処を抜けないと旅は始まらないんだからさつさと此処を抜けないとな……

と、ツバキはズバットを見てある提案を思いつく。

(たしかこいつ「やらをとぶ」使えたような気が……それにもし憑

依しているのならきっと技マシンがあるはず……)

ツバキは、腰にあるポーチからディスクが数枚入ったケースを取出し、ひこつタイプのディスクを探す……あつた。

「へえ、一応見た目は普通のディスクにみえるけど……試すか……えーっと、これをこうして……」

付属の説明書を見ながら準備をしていく。

しばりへお待ちください」

「うーし、これでできるはず……ズバットー！ こっち来てくんないかな？」

「ズバ？ ズバッ」

と、ズバットは嬉しそうにツバキの方へ飛んでいく
「よし、んじゃ、ここをこいつして……セットー！」

ズバットは新しく「そらをどぶ」を覚えた！

「じゃ、いくか！ ズバット、そらをどぶー！」

「ズバッ！ ！」

そして俺たちは大空へと飛び立つていった……

「さあ、冒険の始まりだ！」

第三話（後書き）

なんか打ち切りみたいな終わり方しましたが、まだまだ続きます
(笑)

「そらをとぶ」使用時のポケモンのサイズとかはまあ、仕様なので
気にな(r y

ツバキ「やがましい」

ぶふおおおおおお！？

ツバキ「次回もお楽しみに」

第四話（前書き）

すこし更新が遅れました。では、どうも

あの日から一年経ち……今、カントー地方にいます。はい、飛ばしそぎですね。

あれからホウエン、トーホク地方をまわって今のようになってあります。ちなみにトーホク地方は非公式シリーズの地方で、カントーの遙か北の方向にあります。

あと一年間パートナーだったズバットはどこに……

「ズバッ！」

はい、進化させずにそのままにしております。ポケモンは、進化前でもやたらと強い個体も作ることも可能なのです。ズバットでも。ズバットでも。（大事なことなので二回言いました。）さて、今どこにいるのかといふと、ニビシティに来ております。多分ジムリーダーはタケシのはず……なのですが……

「おまえが挑戦者か？俺が相手をするぜ。」

聞こえた声は幼い声、あれ、タケシじゃない……

「あれ、タケシはどうだ？」

思わずそう聞いてしまった。すると

「ああ、兄ちゃんなら旅にでたぞ。」

はあ！？なんで旅に出てんだよ！？つてことはアニメの世界に来たのか俺は……何かの冗談ですよね、ははは……だって一年も旅して

たんだから、きずかないはずがはず……

「はあ……んじゃ、やるか……」

ため息をつき、だるそつに言つ。
ああ、なんかため息ばつかだなあ……

「では、これよりジムリーダー♂s挑戦者ツバキの試合を始めます！なお、ポケモンの入れ替えは、チャレンジヤーのみとします！」

ジムリーダーよりも幼い声がはきはきと言つ。……兄弟何人いんだつけ？なんか観客席っぽいとこも同じ顔してる奴いるし。おっと、始まりそうだな。

「それでは、始め！！」

高らかに声がスタジアムに鳴り響く！
ああ、始めようか！！

「バトル スタンバイ！！」

戦いの火蓋は切つて落とされた……

ん?
「なあ」

「なんで飛ばした？」

え、えーーー、その、うるさいうるさいあああーーー？

「次回もお楽しみに！」

……なあ

な
んで

「ルーラをどうぞ」

17

第五話（前書き）

五話目です。エリナ！

「それでは始め！」

と、高らかに声がジムに鳴り響く。

「ゆけつ！ハガネール！」

ジムリーダーはハガネールか……タケシのやつだよね。絶対。はあ、どんどんアニメフラグが……

「……バタフリーバトルスタンバイ」

ダルそうに言ひ、まあ出すとき「バトルスタンバイ」って言つたのは、迷つたんですね。最初。んなわけでシンジくん、餃子あげるからさ、許してね。

さて、相性的にはこちらの方が不利だが、こいつには秘策ある……といつてもゲーム世界の一般的戦略だが。

「相性ではこちらの方が有利、交代するかい？」

「まさか、こいつで……倒すんだけど。」

「……わかった、ハガネール！いわなだれだ……」

いわなだれがバタフリーバトルスタンバイに直撃すると思われたが……

「！いない！？」

「後ろだよ、ねむり！な！」

と、バタフリーは緑色の粉をハガネールに振り掛け……

「ネール！……」

直撃し、眠り状態に。もともと素早さが低いこと、そしてバタフリーバトルスタンバイの特性である「ふくがん」によつてかわすことはおろか、至近距離で撒いたのでほぼ確実に当たるはず。

「へつ……でもじつやつて攻撃を……」

「簡単な事、みがわいさ」

「……」

そつ、「みがわり」は自分の体力を削つて、代わりに自分の「ダミー」を出す変化技。

一般的にはこの間に積み技とか、やつたりするのかな

さあ、この嫌がらせをジムリーダーさん、突破できるかな？（笑）
そういうや、このジムリーダーの名前、なんだつけ

「なら……もどれ！」

おつ、交代か、眠つてたらいかに自分が不利になるか解つてゐね、
さあ次は何しようかな……

第五話（後書き）

はい、ツバキが危ないです（笑）

私自身バタフリにはハメられましたので……

次回もお楽しみにつ！

第六話（前書き）

六話目です。相変わらず短いですが、どうぞ

交代か…… わあどうするか…… んーなんか忘れてるような

(交代はチャレンジャーのみとします!)

…………あ……忘れてるね。完全に

「なあジムリーダーさん。」

... ? ?

氣づいてね——

「…………す、すみませんでした…………」

心の中で叫ぶ。てかジムリーダーさん。覚えよつよ。マジで。そんなリアルに土下座されてもなあ……

「じ、じつは最近ジムリーダーを任せたばかりで……」「

……なる。つてかこんな子供に押し付けるのか、そもそも子供でもジムリーダーになれるのか？あんま覚えてないや。

まあともかく……

「まあ……基礎くらいは覚えよつか

「……はい……」

なんか「いつほんとにジムリーダーか？」って思ったわ……はあ、疲れる。

「と、とつあえず……もついつかい、出て来て、ハガネール

「……ணண」

やつぱし寝たまんまか……しゃーない、バトル続行だな

後でハガネール誰のか聞いておこ

第六話（後書き）

はい、交代はチャレンジャーのみなのに何故入れ替えたか。そのりゆうを書いてみました。次からはマトモなバトルをします。……多分ツバキ「多分かよ」

では次回もお楽しみ

第七話（前書き）

我慢できなくなりました。
すいません、七話目です。どうぞ

取り敢えずバトル続行とはなつたが、まだツツコんだとこあったんだよね。例えば「使用ポケモン」とかさ

聞いてみたところ、やつぱり審判忘れてたらしい。一応確認だがこの世界のジムバトルは大体は「使用ポケモンは三体」のシングルバトルで行う。道具については使用は禁止、持たせるというのはまだ広まってはいない。俺が旅したトーホク地方は持たせるのは実用化されていたが広まるまではまだまつてとこ……かな

ツツコミ所満載だが仕方ないかな……

「さて……バトルするか

「は、はいっ！」

うん、緊張してるね。それはさておき……今ハガネールは眠つて立場的には不利。しかし、あのハガネールが借りたやつだとすれば……眠っている状態でも行動可能な唯一の技、「ねご」と「を覚えている可能性」だつてある。防御の種族値が200とバルシェンをも超えるタフさでタイプ一致の弱点技を食らつてもまず落ちない。対する特殊技には弱くタイプ不一致でも弱点を突かれれば一撃で倒されることが多いという欠点が。

よりタフにするなら「ねむる」そしてそれを併用した「ねごと」を覚えていても別におかしくは無いとは思う。現に「ステルスロック」を撒いて「ほえる」で交代させたり、相手の防御が高ければ「どくどく」んでピンチになりや「だいばくはつ」といったやらしい型も存在するんだし混ぜても悪くはない

まあそれに気が付いたらいいんだが……多分無理だろ？。バトルの経験が浅そつだし……………一つ助言でもしてやう。

「ジムリーダーさん、確かに眠つていたら不利にはなるが……逆にそれを利用して相手の意表を突くことだつて出来るんだよ？」

「…………」

「まあ大事なのは、焦らないこと……そして、どんなにパンチになつても必ず諦めないと…」

「…………つー？…………はい…………俺は絶対に諦めない、そしてあなたを倒しますー！」

うん、良いよ良いよ。せつぱり諦めない心つてこいつのはとても大事。最後まで何が起るか分からぬのがポケモンバトルの良いところだよね

「いくよ、ハガネール！！」

「…………」

「やはり眠つているけど何か方法が……………そつかー！」

ん、何か気付いたみたいだな

「眠つてこむときにも出来る事……ハガネールーね」とだつ……」

ハガネールは銀色の粒子に包まれながら回転し、バタフリーに突っ込んでいく……

あれは……ジャイロボール！？「バタフリー！…来るぞ！」

「フリ～～！」

バタフリーもそれに応答し、交わす

「あくむ！」

バタフリーの目がハガネールに向かって怪しく光り、ハガネールが段々苦しそうな顔になっていく

「！ハガネールっ！？」

「あくむ……それは眠っている相手に徐々にダメージを『ねでいく』変化技……をあいくよバタフリー！止めるねつぶうーー！」

「フリ～～～～～～～～～～！」

羽を羽ばたかし、灼熱の突風がフィールドに吹き荒れる。元々の特防の低さ、そして「あくむ」のダメージで当然、……

「は、ハガネール、戦闘不能！バタフリーの勝ち！」

「……もどれ！……よく頑張ったね、ありがとつ

やはりポケモンに対しての愛情は人一倍あるな。絶対良いトレーナーになれるよ。あの子ならね

さあて、面白くなってきた！！

第七話（後書き）

はい、投稿してしまいました……すいません

「あぐむ」は一世代で覚えます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1489y/>

ポケモンの世界に来てしました。

2011年11月23日16時53分発行